

プレスリリース 2025/5/26

配信元：株式会社 ナンバ

## フロンキーパー イオンディライトで大型採用

### 2024年度売り上げは過去最高 552台

冷凍設備を取り扱う株式会社ナンバ（新潟県長岡市、代表取締役社長 難波俊輔 <https://nanba1.jp>）は、自社商品である「フロン漏えい検知システム フロンキーパー」をイオンディライト株式会社への販売を行った。（設置先：大手流通グループ商業施設 38拠点 計380台）イオングループ企業でファシリティマネジメント事業を展開するイオンディライト株式会社は2023年8月にフロンキーパーの取り扱いが始まり、今回大手流通グループ商業施設への大型採用となった。イオングループでは、地球温暖化係数の高い温室効果ガスであり、オゾン層破壊物質でもあるフロン類の漏えいを抑制しながら、省エネにも貢献することを目的としてフロンキーパーの導入を実施。並行して展開を進めるノンフロン冷凍冷蔵ケースへの切り替え提案と併せて、来年度以降に未導入店舗への更なる設置も視野にいられている。また、ナンバではフロンキーパーの販売に伴い、新潟県カーボンオフセットに参画、1台につき1,000円の寄付を行っている。今年の4月には昨年度分の販売実績に伴い、過去最大となる552,000円、37tCO<sub>2</sub>の寄付を行った。累計では112万円、75tCO<sub>2</sub>となる。



#### フロン漏えい検知システム フロンキーパーとは

業務用冷凍設備のフロン漏えいを早期発見できるシステム。約1割の漏えいで検知が可能なので、温度異常発生前の修理を実現。フロン排出抑制法で管理者に義務付けられた3ヶ月ごとの簡易点検の代用が可能。冷凍設備はフロンが5割以上漏えいしても温度異常は見られず、そのまま気付かず、負荷が掛かった状態で使用し続ける事になる。フロンキーパーによるフロン漏えいの適正な管理で、最大約80%の消費電力削減が可能。

ナンバではCOP25にて立ち上げられた、IFLに参画しており、フルオロカーボンの適正な管理の重要性を国際的に訴求するとともに、途上国においてキャパシティ・ビルディングや制度構築支援、フロンキーパーによる電力削減と温室効果ガス排出削減の事例紹介を各国の政府・企業に実施。また、2018年にはNEDOの事業に採択され、マレーシアにてGHG排出削減可能性調査に取り組んだ。これを皮切りとして、環境省から委託事業として、日本国内での令和3、4、5年度のIoT技術を活用したフロン漏えい検知システムにおける調査事業、海外ではタイ等のアセアンを対象とした、令和2、4、5、6年度の事業にフロンキーパーを提供、グローバルな地球温暖化防止に寄与。また、2024年にはCOP29に併せて環境省が開設した「COP29 ジャパン・パビリオン」において、フロンキーパーをバーチャル展示。また、MOP36でのジャパンプースでは、実機の展示を行いました。会場ではモントリオール議定書の成功を主導し、ノーベル平和賞を受賞したオリバー・O・アンダーセン氏から「世界中に広めて欲しい」と背中を押していただいている。この一連の取組みの中で、オゾン層保護・地球温暖化防止大賞の環境大臣賞、長岡市表彰、新潟県経済振興賞を受賞。



フロン漏えい検知システム  
フロンキーパー



アンダーセン氏（中央）  
と難波社長（左）

問合せ先：株式会社ナンバ 広報担当：ブランディング戦略部長 袖山

住所：新潟県長岡市三島新保 633-1 TEL：0258-42-2211 FAX：0258-42-2089

ホームページ <https://nanba1.jp>